
激走戦隊カーレンジャー 真夏の大雪 通行止め！

ブレードゼロ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

激走戦隊カーレンジャー 真夏の大雪 通行止め！

【Nコード】

N9407Y

【作者名】

ブレードゼロ

【あらすじ】

pixiv及びtinamiとの重複投稿。激走戦隊カーレンジャーが勤務する自動車会社、ペガサスにある日突然現れたのはなぜかいいことをするボーゾクだった……。

（前書き）

とりあえず、本編内でのボーゾックの負け数については気にしないでください。

「野球で勝負しようとするれば激走戦隊カーレンジャーに打ち返され、奴らには伝説の野生の車も持っていていかれてしまった……。どう倒せつてんだ！」

バリバリアンで宇宙暴走族ボーゾックの総長ガイナモが頭を抱える。

「私にいい考えがあります。リーツチツチツチ……。それを受けてリツチハイカー教授が言う。」

「入ってきなさい。激走戦隊カーレンジャーの最大の弱点をつける者よ。」

「お前は……^{ウエーウエー}ボーゾックの気象学者WWザザン！」
「はいザザン！」

ところ変わって株式会社ペガサス。

いつもどおり、激走戦隊カーレンジャーに戦う力を与えたダップが作ったカーレンジャーの秘密基地のサイレンが鳴る。

「ボーゾック発生ダップ！」

ダップがいつもどおりに秘密基地から出てくるが、そこでチャイムが鳴る。

「株式会社ペガサス様にお届けものザザン。」

「お前が今週のボーゾックか！」

「WWザザンだザザン。そんなことより……」

WWザザンが持っていた箱を差し出す。

「暑いのでお中元ザザン。」

早速実が箱を開けて中身を見る

「おおっ、うまさうなアイスクリームやん！」

ドライアイスによるもやと共に箱の中から現れたのは6個のアイスクリーム。

「今は社長がいないから……バレないうちにダップの分にしちゃい

ましょ！」

「それがいいでございます！」

洋子の言葉に同意する直樹。

「待って！もしかしたら何かの罠かも……。」「

だが、菜摘だけは警戒するが、

「心配することはないぞ、ペガサス勤務の一般市民達！」

「シグナルマン！」

「本官もお中元をいただいて食べたが……このとおりだ、なんともない！」

どうやら近所中に配っているらしい！

それにだな……」

シグナルマンが回想を始める。

パトロール中のシグナルマンの横を自転車に乗った子供が通り過ぎていく。

「ああつ、コラッ！歩道を自転車で……」

「自転車で歩道を走っちゃいけないザザン！」

その前に立ちはだかり、自転車を止めるWWザザン。

「はい、こつちザザン。」

縁石の外に出し、

「ごめんなさい。」

「分かればいいザザン！」

手を振って見送る。

お婆さんが信号のない横断歩道を渡ろうとしているが、なかなか渡れないで見えたシグナルマンが駆け寄ろうとするが、

「おばあさん、おぶって渡らせてあげるザザン。」

「おやおや、優しい宇宙人さんだこと。」

「……とまあ、こんなことがあったのだ。」

「もしかしていいボーゾック？」

「ボーゾックがいいことするなんて！」

「雨でも降るんちゃう？」

「やっぱり何事もないのが一番でございますね。」

くつろいでいた直樹が言った直後、

「今度こそボーゾック発生ダップ！」

「よし、みんな、行くぞ！」

「激走！アクセルチェンジャー！」

現場に駆けつけるとWWザザンが暴れていた。

「戦う交通安全！激走戦隊カーレンジャー」

「来たか、激走戦隊カーレンジャーザザン！」

「WWザザン！お前、結局悪いボーゾックだったのか！？」

「当たり前ザザン。チーキュの都会は雪に弱い！

雪を降らせればチーキュは大打撃ザザン！」

「そんな、夏場に雪が降る訳ないだろ！」

突然、雪がちらつき出す。

大雪がカーレンジャーの5人の上になだれ込み、雪に埋もれるカーレンジャー。

「な、なんだなんだ！」

ペガサスの秘密基地。ダップが見ていたニュースではお天気お姉さんが話していた。

「日本全域に大雪、雪崩警報が発令されました。」

これは普段、悪事ばかり働いているボーゾックがいいことをしたためと思われ、

ボーゾックに善行を止めさせる必要があるものと思われます。」

「大変ダップ！悪人がいいことをしたことで雪が降ってきたんだッブ！」

「もつといいことしちゃうザザーン！」

「させるか！オートブラスター！」

5人が光線銃を構え、撃とうとするが

「なんで出ないの！？」

「スタッドレスタイヤを履いていない車は雪道では走れない！クルママジックパワーが雪でかき消されてるんだッブ！」

そのうち5人ともへたりこんでしまう。

「ああっ、くそっ……普段通りの力がでない……。」

「おおっ、予想外に良い展開ザザーン！」

「くそっ、ダッブ！RVロボの発進を頼む！残っているクルママジックパワーでやつを……。」

「駄目ダッブ！雪で出動できないダッブ！」

「激走戦隊カーレンジャーのRVロボは車でできているザザーン。つまり巨大ロボも出せないザザーン！」

「そうだ！ペガサスサンダーで空から……！」

「なお、全国が大雪になっっている影響で飛行機は国内便、国際便ともにもすべての運行を見合わせている模様です。」

「だってダッブ。」

ニュースキャスターが無情にも告げたのを通信で聞く。

「心配はいらないぞ……激走戦隊……カーレンジャーの諸君……」

「シグナルマン！」

吹雪の向こうにシグナルマンの影が映る。

「本官は……子供の頃……自分の限界に挑戦しようと思って……」

シグナルマンは恭介たちの目前まで来て倒れた。

「アチッ！すごい熱だ！」

額に手を当てた恭介が思わず手を引っ込める。

「アイスクリームを大量に買い込んで……食べたことがあるのだ！」

当然腹を壊して……高熱で寝込んだ！

そのボーゾックが配っていたアイスクリームを……事情を話して
ご近所の方々から頂いて全て食べたのだ！」

「そんな……自分の体を犠牲にして……。」

「シグナルマンの熱のおかげで雪が溶けていく！」

「クルマジックパワーも戻ってきたでございます！」

「こうなったら奥の手……、芋長の芋ヨーカン！」

芋長の芋ヨーカンで巨大化するWWザザン。が、突然大雪がやむ。
「何故ザザン？雪がやんだザザン！」

「それは私が説明しましょう。これはボーゾックがいつもどおりの
方法で巨大化したためと思われます。」

「だっぷ。」

「形勢逆転やな！」

WWザザンもニュースを聞かされる。

「しまったザザン！」

「レンジャービークル、発進！」

素早くRVロボに合体し、

「RVソード！激走切り！」

「ぐわあっ！ワンパターンは……いけないザザン！」

そして数日後、

「うーん、うーん……」

「シグナルマン、風邪をひいてまでボーゾックを倒すなんてかつこ
いい！」

シグナルマンはペガサスの社長の息子、市太郎にコバーンベースで
看病してもらっていた。

そしてペガサスでは、

「おいお前ら、もうちょっと真面目に働けよな……。」

社長が見るからにだらけている恭介と実に言う。

「あれ、知らないんすか社長。急に真面目に働くと大雪になって日本が大変なことになるんですよ。」

「そうそう、こないだのボーゾク、そうやって雪降らしたってユースで言っとりましたよ。」

「だったらなあ……」

ドスン、ドスンと思いきり足音を立て、恭介と実に近づいていく社長。

逃げようとしたが、

「お前ら、普段から真面目に働けー！」

社長の拳骨で身体を挟まれ、グリグリされる恭介と実だった。

（後書き）

真夏に「こんなときに大雪でも降ってくれないのか……」と思った結果思いついてしまったSS。悪ノリ戦隊なのでとりあえず悪ノリでノリにノッて不条理さを最優先に。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9407y/>

激走戦隊カーレンジャー 真夏の大雪 通行止め！

2011年11月28日01時54分発行